

松江市立天文台～6月の天文教室～

平成30年6月27日

～6月下旬午後9時頃の星空～



日が沈み空の色が濃いコバルトブルーに変わる頃、西の空には金星が輝き始めます。暗くなるにつれ、空にはしし座やおとめ座、北斗七星など春の星座と木星が見え始め、東からは夏の星座を引き連れるように土星が昇り、さらに夜半近くなると、今年の夏に地球に大接近する火星が姿を現わします。

今年の夏は星座だけではなく、木星、土星、火星など多くの惑星が楽しめます。

6月中下旬午後9時頃の星空です。

月、金星、木星、土星の位置は6月27日現在のものですが、見かけの大きさは強調してあります。

この星図で星を探すときは、見る方角を下にしてみましょう。

今夜の月



今夜の月は月齢13
満月の一日前の姿です。
小型の天体望遠鏡や双眼鏡でも、
まぶしく光る表面の多様な模様が
観察できます。

金星



今の金星は夕方に「宵の明星」
として輝いています。
日没後暗くなり始めた西の空
に見つけることができます。

木星

小型天体望遠鏡で見た今夜の木星



木星は表面のしま模様と、4大衛星(ガリ
レオ衛星)を観察できます。
4つの衛星は、木星に近い方から、イオ、
エウロパ、ガニメデ、カリストの順になりま
すが、木星の周りをまわっているため、衛星の
位置関係は日々変化します。

ヘルクレス座



ヘルクレスは、ギリシャ神話に登場する有名な英雄で
すが、そのわりには明るい星がなく、みつけにくい星座
です。

この星座を有名にしているのは、北半球で見える最大
級の球状星団M13の存在です。

また、α星のラス・アルゲティは色の対比が美しい二重
星で、オレンジ色と青緑色に見えると言われています。

球状星団M13



M13は、50万個もの星
からなり、その直径は約1
00光年あると言われてい
ます。

双眼鏡でも丸い星のよう
に見え、大きな天体望遠
鏡になると星がひとつひとつ
分離して息をのむほどの
美しさです。

資料のデータは天文年鑑、アストローツから引用しています。
使用する天体望遠鏡によっては、視野の上下左右が逆に見えます。
また、空のコンディション(雲、透明度)により、天体の見え方は違います。

夏休みも市役所天文台！

☆7月の天文教室

7月25日(水) 20時から21時まで
(受付は市役所正面玄関で19時30分から)

☆8月は火星大接近2018観望会！

8月21日(火)・22日(水)・23日(木)
(受付は市役所正面玄関で19時30分から)

事前予約は必要ありません



★ Matsue Astronomy Club
MAC 松江星の会